

週報

こひつじ

第40巻 33号
大津キリスト教会
菊池郡大津町室 119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師 米村 英二

傷ついてはならない

その三 傷つかない心を培うには

では、傷つかない心を培うにはどうしたらよいか。
神とともにひとり立つことだ。
内村鑑三は言う。

「独立と孤立とはちがう。独立は神と共にひとり立つことであって、孤立とは何者とも共に立つあたわさる事である。神と共に立ちて、人は独りでも立ち得ると同時に、たいていの場合には他と共に立つ」

（『続一日一生』一月一日）
自立した人は、神のほかだれにも依存しないので、だれとでもやってゆけるというのである。
長女の真紀がアメリカの大学で学んでいたときだった。
そこには日本人学生が何人かい

た。日本人はどこにいてもグループをつくる傾向がある。

真紀は友だちを失うのを恐れて、どちらの仲間になろうかといつも

気遣っては傷つき、そのことで振り回されていた。

そんな彼女を見て私は言った。

「ひとりにになりなさい。どちらのグループにも属さないことだよ」

最初は迷っていたが、やがてその助言にしたがって思い切ったひとりになった。

まもなく手紙が来た。
「ひとりでやってゆこうと決めた

ら、気持ちが楽になりました。日本人以外のいろんな国の学生たちとしゃべったり、ひとりでピアノ

を練習したり、自分で時間を使えるようになってきました。あと一年半、自分次第で、充実した体験をもつことのできるよいチャンスなのですから、がんばってみようと思います」

神とともにひとり立つこと、それが傷つかない人生への第一歩である。

次に申命記は、日常の食生活にもふれている。それは傷つかないこととどんな関係があるのだろうか。

第一に、反芻するものは食べてよい、とある。

反芻とは、一度食べたものを、再び出して、また、よくかむことである。

牛が食する姿は、ゆっくりと落ち着いて、どこか堂々としている。クリスチャンも、神の言葉を食し、反芻するように言われている。

それが、神とともにひとり立つということなのではないだろうか。したがって詩篇の記者は言う。

「まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のように、時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える」（詩篇一の二、三）

神の言葉を口ずさむこと、反芻すること、これ以上に私たちの心を豊かにし、強くするものはないだろう。

第二に、食べてよいのは、ひれとうろこのあるものだ。

ひれとうろこのある魚はよんだ水にとどまることをしない。つねに新鮮な水を求めて先に進む。

だから清潔である。いのちに溢れている。

神谷美恵子さんも、よどんだ空気をきらった。彼女はあの日日記に書いている。

「医局内の人事について、雑音が聞こえてくる。俗な精神に出会うと、一刻も早くバッハの音楽に浸って、それを洗い流したくなる」

彼女は美しい世界にふれることによって、落ち着いた心を取り戻し、卑俗な世の中の雑音を超越したのである。

いつだが海流についての番組を見た。

海流には日本海流や対馬海流などの表層海流とは別に、海の深いところを流れる深層海流というものがあるそうだ。

それは北大西洋で海の底へ沈み込み、アメリカ大陸にそって南下し、インド洋、太平洋へと流れ、北太平洋で表面に上り、日本近海の表層海流と合流したあと、再び北大西洋へ戻ってゆく。その大循環には二〇〇〇年ほどかかる。

が、この循環があるから、海の温度が一定に保たれているのだという。

そしてこの深層海流と表層海流が合流するところにプランクトンが多く発生する。

魚たちは勝手に泳いでいるのではなく、その栄養豊富な海流に乗って旅をしている。だから新鮮で生命に溢れているのだと思う。

私たちもこれらの魚たちのように海流に乗って旅をすべきだろう。私たちにとって深層海流とは、数千年にわたって人類を導いておられる神のみことろだと言ってよい。

ささいなことに傷つかないため

には、この深層海流ともいえるべき
 壮大な神のご計画、歴史の流れ、
 聖霊の流れに身を任せつつ生きる
 ことが求められるのではないだろうか。
 (終)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、
 第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。
 ○説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は岩崎宏志さん、奏楽は
 吉岡隆夫さん。

○礼拝の奉仕は、奈良県生駒市
 にあるKBI（関西聖書学院）舎
 監の富浦信幸・彩夫妻と六人の子
 どもたち。

子どもたちの讚美とダンス、妻
 であり母親である彩さんの献身の
 証のあと、富浦牧師が、ルカ九の
 二三から、イエスの恵みこそは、
 私たちの負うべき十字架なのだと
 語ってくださいました。

質疑応答の時間では、六人の子

どもたちが、自分の夢について語
 ってくれたことが印象的でした。
 愛とユーモアに満ちたすばらし
 いクリスマスチャン・ファミリーとの
 出会いに来会者の多くが感動しま
 した。

先週の出席

○礼拝参加者は、大人九四名(男
 三四、女六〇)。それに子どもが六
 名。合計一〇〇名でした。

○アメリカのヘイスティングス
 から派遣された国際交流員サバナ
 さんが礼拝に参加されました。

少年少女合唱団

第二八回大津少年少女合唱団の
 定期演奏会が、九月一日(日)
 午後二時から大津町文化ホールで
 開かれます。案内が受付にありま
 す。自由にご参加ください。

富浦牧師より感謝の便り

昨晚おそく、ぶじKBIに到着
 しました。二日間、ほんとうにお
 世話になりました。快適なお部屋、
 おいしい食事、兄弟姉妹との交わ
 り、そして先生ご夫妻との楽しい
 会話、すべてに感謝です。

また過分な献金をまことに恐縮
 しております。言葉がありません。
 ほんとうにありがとうございます。
 子どもたちにとっても、よい経
 験でした。自分の名前の由来、そ
 して夢を語る機会が与えられ、彼
 らにとってもほんとうによいとき
 でした。彩さんも、証の機会が与
 えられ、自分自身の生き方が整理
 されるとなったと思います。
 先生ご夫妻の生き様に大いにはげ
 ましを受けました。

一月にはJECの婦人大会
 (西宮及び堺)で先生にはご奉仕
 いただくことになっているので、
 再会を楽しみにしています。

八月一九日

富浦信幸・彩